

土浦市中心市街地活性化協議会

第27回会議議事録

日時 令和6年5月9日 午後2時00分
会場 土浦商工会議所

通常総会

1. 挨拶

2. 議事

- 議案第一号 令和5年度事業報告
- 議案第二号 令和5年度収支決算報告
- 議案第三号 令和6年度事業計画（案）
- 議案第四号 令和6年度収支予算（案）
- 議案第五号 任期満了に伴う役員を選任（案）

第27回土浦市中心市街地活性化協議会

1. 報告事項

- (1) 第26回土浦市中心市街地活性化協議会について
- (2) 第三期中心市街地活性化基本計画の認定について

2. 協議事項

- (1) 土浦市中心市街地活性化基本計画進捗状況について
- (2) 令和5年度土浦市中心市街地活性化基本計画の
最終フォローアップに関する報告に対する意見書について

【配布資料】

- 資料① 土浦中心市街地活性化協議会 第26回協議会結果について
- 資料② 土浦市中心市街地活性化基本計画 事業進捗状況一覧
- 資料③ 令和5年度土浦市中心市街地活性化基本計画 進捗状況
- 資料④ 令和5年度土浦市中心市街地活性化基本計画の
最終フォローアップに関する報告
※土浦市中心市街地活性化基本計画（概要版・詳細版）

第 27 回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

開催日時 令和 6 年 5 月 9 日（木）午後 2 時 00 分
開催場所 土浦商工会議所
出席者数 委員 18 名（代理 1 名）
出席者名 中川喜久治（土浦商工会議所会頭）
村上 暁信（筑波大学教授）
酒井 忍（土浦都市開発(株)常務取締役）
小椋 直樹（土浦商工会議所青年部会長）
石田百合子（土浦商工会議所女性会理事）
飯泉 貴史（土浦市都市政策部長）
塚本 隆行（土浦市産業経済部長）
関 和郎（土浦商店街連合会副会長）
横山 恭教（NPO 法人まちづくり活性土浦理事長）
竹中 紀博（土浦市地区長連合会副会長）
篠 捷子（土浦市女性団体連絡協議会副会長）
高橋弘一郎（(株)アトレ プレイアトレ土浦店長）
伊藤 幹生（土浦市金融団）
内村 尚史（土浦市金融団）
佐藤 之則（(公社) 茨城県宅地建物取引業協会土浦・つくば支部幹事）
大久保和男（(一社) 霞ヶ浦市民協会理事 ※副理事長 高木節子氏代理）
枝川 良昌（茨城県建築士会土浦支部総務企画委員長）
寺田 賢（(一社) 茨城県ハイヤー・タクシー協会県南支部会計）

（監事）

武藤 知子（(一社)土浦市観光協会専務理事）

（オブザーバー）

海野 健（茨城県産業戦略部中小企業課経営支援室室長
※中小企業課課長 武井雅樹氏代理）

（土浦市）

福澄 雄佑（都市整備課長）
沼尻 健（商工観光課長）
長坂 英治（まちづくり推進室長）
藤澤三智彦（まちづくり推進室主幹）
伊藤 大祿（まちづくり推進室主幹）

（事務局：土浦商工会議所）

松井 修一（専務理事）
加賀美吉彦（事務局長）
飯野晃（中小企業相談所長）
寺田 英明（商工振興課長）
菅原 伸司（商工振興課長補佐）

1. 挨拶

(中川会長)

皆様こんにちは。大変お忙しいなお集まりいただき、ありがとうございます。
大連休明けということで皆様もお出かけになられて、人ごみの中に入られたと思います。昨日の茨城新聞で、コロナが5類になった1年目ということが発表されていきました。昨年の5月から11月の間に全国で1万6千人がコロナで亡くなっているという記事もありまして、5類になったからと言って安全ではないということも含めて、連休の間にマスクせずに出かけている方も多い中、新聞は警鐘を鳴らしてくれているのだと思うのですが、我々中心市街地活性化協議会のメンバーとしては、人ごみを作らなくてはいけないということもありますので、感染に気を付けながらまちづくりをしていかなければならないと思っております。

まず、うれしい知らせとして、令和3月26日付けで第三期の基本計画が、内閣総理大臣の認定を受けることができました。一期5年の計画ですが二期が認定され、今回第三期ということで、それだけ内閣総理大臣として、土浦市の事業が認定されたことは、非常に素晴らしいことですし、認定されるには協議会の意見書が非常に重要な位置を占めますので、皆様の二期10年のご努力が実を結んで土浦市の役に立っているということは胸を張っていただきたいと思いますし、それらを含めて今回の協議会では、反省と検証をしていただければと思います。

私は土浦市中心市街地活性化委協議会の会長を10年以上行っているわけではありますが、まちづくりについて具体的な部分でなかなか知ることはできなかったのですが、中心市街地の活性化をどうしようかという委員会に所属し勉強すると、俯瞰的にこの地区はどういう歴史または文化、状況などを含めて、まず思ったのですがこの地区は、首都圏の大きな要素を持つ歴史的にも重要な位置にあると感じました。その中でTXがつくばで停まっているのを常磐線土浦駅に繋げるということは、土浦ということではなくて地域全体、首都圏全体、もっと言えば日本全体に必要な事業が土浦に残っているということを感じました。もう一つは霞ヶ浦の活性化で浄化と言うのは大きなテーマになりますが、霞ヶ浦と言う大きな水資源、観光資源として土浦の資源というだけではなく、世界へ伝えるような観光資源へ高めていく必要があるのだろうと先輩方が積み上げてきたものではないかと、私は一期の時に、霞ヶ浦の浄化も含めて有効な活用、人が集えるような大きな噴水を建設して観光客を生もうではないかとお話しました。またTXを常磐線につなげて首都圏の静脈動脈とするということも大きな意味があるということを考えていたということは、私も中活をやらなければ考えなかったと思っております。

そのようなことも含めて、土浦市中心市街地活性化協議会の抱える地域というのは、土浦港から亀城公園ということで、湖を有している中心市街地活性化協議会は他に無いのではと思っております、これを活かせるチャンスがあるということで中活に湖があるということは特出すべきで、その他の地域に対して光るものがあるのだろうと思っております。

そういうことも踏まえて、まちづくりができればと思っているところでありますので、是非、皆様のそれぞれの視点からお知恵をいただければと思いますし、また第一期の時期に必死に駆け回っていただいた飯泉様も担当部長としてご参加いただいていることも非常に嬉しく思いますし、当時の東郷部長にも頑張っていただいて、二期までの認定をいただいたということは、土浦市の皆様の素晴らしいご活躍があったと思っております。現在、国の財政が非常に困難な状況が続いている中で、やる気のある所には補助をするが、やる気の無い所には知りませんということは、色々な場面で出てくると思います。中活もそうなのですが、やる気のある市町村の素晴らしい計画があるならば、どんどん

応援しますが自分の力でやる気の無い所は、置いていきますというスタンスになっていくのは中活だけでなくいろいろな制度で国の方針として出していくのだと思います。国の大きな支援を受けるにはその都市の特徴を活かした計画づくりが、本気でできるかということが問われるのだと思います。

是非とも本日二期目の計画が終了した時点でのまとめを皆様と検証しながら、三期目に向かう素晴らしいスタートを切りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、オブザーバーとして茨城県産業戦略部中小企業課の経営支援室長の海野様にご出席いただいていることは、非常に心強いと思っております。

この地区は土浦だけでなく、国をあげて一緒になって開発・発展させる地域だという位置づけをもって、また、TX 延伸についても国の関りが大きいかと思いますが、茨城県と一緒に進めていきたいと思っておりますので、色々よろしくお願い申し上げます。冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

定足数確認

(事務局)

規約の定める定足数を満たしている旨を報告。

(中川会長)

追加議案について議場に諮り、提出 5 議案を審議することを確認。

議案第一号令和 5 年度事業報告、第二号令和 5 年度収支決算報告について、事務局説明後議場に諮り、異議無く承認された。

議案第三号令和 6 年度事業計画(案)、第四号令和 6 年度収支予算(案)について、事務局説明後、議場に諮り異議無く承認された。

議案第五号任期満了に伴う委員の選任(案)について、事務局説明後議場に諮り、異議無く承認された。

※承認後、新任委員より挨拶をいただいた。

(閉会)

14 時 40 分閉会を宣言し、引き続き第 27 回協議会会議を開催した。

14 時 40 分 第 27 回土浦市中心市街地活性化協議会開会

1. 報告事項

(1) 第 26 回土浦市中心市街地活性化協議会について

(事務局)

資料① 議事録をもって報告に代えた

(2) 第三期土浦市中心市街地活性化基本計画の認定について

(長坂室長)

令和 6 年 3 月 26 日付けで、第三期計画が内閣総理大臣の認定を受けた旨、並びに認定までの協力についての御礼の挨拶があった。

認定された計画については、計画内容を記載した冊子(概要版含む)を配布し報告とした。

3. 協議事項

第三期土浦市中心市街地活性化基本計画(案)について

(中川会長)

それでは、暫時議長を務めます。活発な協議になりますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

それでは(1)土浦市中心市街地活性化基本計画、第二期計画の進捗状況について説明をいただきますが、(2)の国に提出する最終フォローアップに関する報告について、併せて説明いただいた方が、ご意見が出やすいと思っておりますので、(1)(2)について、

一括して説明をいただき、皆さんからご意見を頂きたいと思います。

説明は、土浦市都市整備課 まちづくり推進室 主幹 伊藤様からお願いいたします。

(伊藤主幹)

【説明】

土浦市都市整備課まちづくり推進室伊藤主幹より、第二期計画（案）の資料②資料③資料④について説明。資料②をもとに完了事業、実施中事業、継続事業の状況報告。全70事業で未着手の事業は無し。

資料③は後ほど参照いただくこととした。

資料④は下記の通り説明

【概況】

令和元年度を初年度とする第二期計画においては、「人がまちをいきかう～拠点形成からネットワークへ～」「人がまちをつくる～担い手のひろがりへ～」「人がまちにすまう～選ばれるまちへ～という3つの基本方針のもとに各事業を実施し、第一期計画で整備した「うらら大屋根広場」や「アルカス土浦プラザ」といった広場空間のイベント等の利活用促進等により、休日の歩行者交通量が増加するなど、計画当初からにぎわいの創出に一定の効果が見られていた。

しかし、計画期間中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、令和2年度から大規模イベントの中止や、各種行動規制による人の往来の減少や地域経済活動の低迷の状態が続き、にぎわい創出が難しい状況であった。

令和5年度には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類となったことで、各種イベントの開催や地域経済活動も回復傾向を見せ、中心市街地にもコロナ禍以前のまちの姿が見られるようになった。そのような中、目標である「新規出店・企業数」は計画期間中、最も多い24店舗となり、目標を達成した。

また、土浦駅周辺には計画期間中に複数のマンションが建設されるとともに、土浦駅から品川駅への常磐線乗り入れ本数が拡大され、東京圏へのアクセスが向上するなど、駅周辺の生活利便性が向上し、中心市街地人口の増加へとつながったことで、目標である「中心市街地居住者人口割合」は令和4年度の5.42%から令和5年度は5.66%まで増加し、目標を達成した。

一方で、目標である「歩行者・自転車交通量」については、令和4年度から数値は減少し、目標達成とは至らず、人々が「出歩きたくなる」まちとなるように、安全で快適な歩行者空間の創出や施設整備を進め、駅周辺からまちなかへと回遊性の向上に努める必要がある。

【計画の進捗・完了、活性化が図られたか】

二期計画全70事業の未着手が無いこと。土浦駅から品川駅への常磐線乗り入れ本数拡大、駅周辺への複数のマンション建設、開業支援による新規出店者増、サイクリング客増、亀城モールを利用したの地域住民主体のイベント開催などにより、概ね予定通り進捗・完了し、活性化状況は活性化したとした。

以降、令和5年度に実施した市民アンケート結果の詳細説明及び3指標で「新規出店・開業店舗数」と「中心市街地居住者人口割合」が基準値を上回り達成。「休日の歩行者・自転車交通量」にすいては達成できなかった旨の説明があった。

(中川会長)

ありがとうございます。

只今説明いただいた基本計画の取り組みに対して、協議会からの意見を附すことが義務付けられております。

皆様からのご意見を集約して提出したいと考えておりますが、叩き台となる（案）を書かせていただきました。

これについて、事務局より説明をお願いいたします。

【活性化状況を若干活性化したと評価し、その詳細を説明】

二期計画（平成31年度から令和5年度）の5年間は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、目標達成が難しい状況であったが、計画最終年度の令和5年度から、イ

ベント開催や亀城モールの公共空間の利活用等が見られるなど、明るい兆しが見えてきた。

一方で、令和5年5月に実施した、中心市街地活性化に関するアンケートでは、多くの方が賑わいを感じられないと回答があるなど、課題を残していることから解決に向けた取り組みが必要である。

そのような中、本計画で掲げた3指標を見ると「休日のにぎわい創出」については、目標値に及ばない結果となった。

「りんりんスクエア土浦」「りんりんポート土浦」などの拠点活用によりサイクリスト増加による「自転車のまち土浦」認知度向上は伺えるが、中心市街地への誘導に繋がっていない状況である。このことからサイクリング事業推進とあわせて、更なる中心市街地の広場空間の利活用促進とまちなかへの導線対策強化の取り組みをお願いしたい。

「商業・業務機能の活性化」については、令和5年度における新規出店・起業数が24件と令和2年度からコロナ禍にあっても順調に増加しており、開業支援の家賃・改装補助の取り組みが成果を挙げている。

出店意欲のある創業者からの注目度も高まっており、更なる商業活性化を目指すためには、退店状況の把握や残された空き店舗の老朽化対策等、店舗の最適化に向けたまちなかテナントミックスの取り組みが必要であると考えます。

「まちなか居住人口の増加」については、令和4年度から5年度にかけての、土浦駅北側地区のマンション建設等によるところが大きい。

市が取り組んできた、移住・定住を促進する事業並びにシティプロモーション事業や子育て支援推進など「住みたくなるまち」に向けた事業が評価を受けた結果と考えます。しかしながら、まちなかの人口増が休日の賑わいに貢献していないことについて、市民アンケート等を具に検証され、本質的課題を特定し次期計画においては課題を克服する事業に取り組まれることを期待したい。

将来像である「歴史が息づき人々が集う魅力ある湖畔の都市」を実現するためには民間投資の参入促進、急増する訪日外国人観光客を強く意識した霞ヶ浦の活用強化が求められる。

人口減少、災害対策等、アフターコロナなど産業構造の変遷が著しいなか、中心市街地活性化は困難を極めるが、三期計画に取り組む貴市に感謝と敬意を表するところである。

当会としても、市の目指す姿の実現に向け、課題克服と更なるにぎわい創出に担う役割を果たしてまいりたい。

(中川会長)

全て関連がございますので、どの項目からでも結構です。

ご意見お聞かせいただきたいと思います。

(篠委員)

中心市街地の賑わいの部分ですが、評価Cとのことですが、駅前にマンションが建設され人数が増えたということですが、それで終わってしまった感じで、まちなかに人が集まらなければ本来意味が無いと思うので、人を集めるというものがまちなかに何も無いです。市役所は駅前にあるのじゃないちゅう行きますが、何か用事があってというか、買い物はイオンに行くと、たくさんの方がいらっしゃいますし、中心市街地の通りに寄る所が何も無いのですよね。人が集まる何かが無いと人は寄ってこないと思います。また、サイクリングを進めるのは良いのですが、サイクリングの人は通り過ぎていると思います。サイクリングに来て、寄るところがあれば来るでしょうが、何もないと通り過ぎると思います。「集う魅力ある湖畔の都市」。ここをもう少し掘り下げていただいて、年配の人も来やすいというか、人が集まってくるとそれにつられて集まってくると思うのですが、その柱が何も無い気がします。通り過ぎる場所になってしまって、寄ってみたいという場所にはなっていないという気がしました。あと、色々土浦市内でもイベントをされていますよね。先日NHKで水戸での賑わいのあるイベントで、高校生が参加したというのがありました。土浦でも学祭というのをやっているのですが、カフェバーのような感じで出店してまして、水戸はテントを張って自分たちが作ったものを売っ

たりしていました。ただ見るだけでなく、会話ができたりすることがあると良いのかなと思いましたが、キッチンカーだけでなく、ちょっとしたものでも良いのでそのようなものを売りたい方々が集まって賑わうというのも良いかなと思いました。

(竹中委員)

今、篠委員からキッチンカーという言葉が出ましたが、新規出店者の達成状況で、令和4年度に9件と記されていますが、今の若い方とお話をするとうりはキッチンカーで出店して副業で複数のキッチンカーで経営しているという方が何人もいらっしゃるようです。出店数にキッチンカーの取扱いについては、どのように考えてればよいか教えていただきたい。

(事務局)

会議所としては市の開業支援制度で開業支援していますが、キッチンカーは含まれていません。

(福澄課長)

空き店舗における新規出店数については、1階の路面店やモール505を対象としており、キッチンカーは対象としていません。

(佐藤委員)

新規オープンについては大成功であったありますが、竹中委員がおっしゃっているのは、空き店舗が何店舗残っているのか、早期に辞めている店舗はありませんかということだと思います。同じ店舗でも新しい店が入れ替わっているとか結構あるので、増えた感じがしないということだと思います。オープンはうまくいっていると思うので、継続してもらおう方法を少し考えた方が良いと思います。また、オープンは良いのだけど合法ドラッグみたいな店ができてしまうというのは問題だなと思います。

(事務局)

商工会議所では、土浦市の開業支援制度を受け付けておりますが、平成26年から本制度使用した新規開店は90店ほどでその内11店の退店という状況です。中心市街地内。その他開業支援制度を使用していないものについては、把握していない状況です。

(沼尻課長)

開業支援の補助金制度を担当しております。令和5年度については10店舗ほど家賃と改装費の補助を実施しました。細かい資料は持って来ていないのですが、市内に10商店会ございまして、店舗数について足を運んで数を数えていまして、506店舗の内現在72店舗が空いている状況です。昨年度から見ますと3店舗ほど空き店舗が減っているわけですが、劇的な減少とまではいかない状況です。

(中川会長)

連休の前に他地区の方々とお話する中で、茨城県では、ひたちなか海浜公園のネモフィラが有名ですが、土浦にはゴールデンウィークなどで人が来るようなものはありますかという問いに対して、特別ゴールデンウィークにという所は無いですという話をしたのですが、人口が減少してきている状況で中活において、交流人口を増やすというのは大きなテーマであります。外部から人が集まるといいう仕掛けが政策の中に位置づけとしてあると思います。本気で交流人口を増やすには土日などの休日に、市外の方が来られるものとして牛久大仏やひたちなか海浜公園のネモフィラ、袋田の滝などあると思うのですが、自然豊かな霞ヶ浦のある土浦に大勢の方が来られるよう意識したまちづくりとか、はっきりとした観光地としての打ち出しというのをやっていない気がしますので、人口減少の流れの中で難しいかもしれませんが、中活の中で皆様の意見を聞きたいと思いますが、市としては市外の方が来られるような政策などありますでしょうか。

(飯泉部長)

私もゴールデンウィークを地元で過ごしてみて、まちなかの人も感じたと思いますが、土浦市内では人が集まるような催し物や場所が無いという状況なので、今回のゴールデンウィークは暑いくらいの好天だったので、どこかに出かけるにも混んでいるのだろうと思いました。ですので市内でそのような場所やお店があれば、市民が集まり、そうなれば近隣の方も集まって来るだろうし、交流人口の増加にも寄与できるだろうと考えていましたので、実際これを誰が行うのかという話は別として、そういったものは土浦に必要なのかなと思いました。

(武藤監事)

ゴールデンウィークに外国の方々が各地に訪れていて、色々な問題もあるとニュースで聞いておりますが、土浦でも観光協会としてインバウンドに対して注力していきたいと考えています。

(寺田委員)

インバウンド等来訪者も必要という話がありましたが、イベントなどは色々やっております。その情報発信はどうなっているのかと思ってしまして、たまたまネットのライブ配信なのですが、つくば駅前広場でリアルタイムの映像配信がされておまして、今現在どうなっているかはわかりませんが、つくば市のイオンでリアルタイムで見られるというものがあるので、土浦でも色々なイベントをライブ配信していくとか、また、道路の状況や河川、霞ヶ浦の状況とか防災の観点からの情報発信を土浦でも行っていますが。また、切り口を変えて賑わいを発信するためのライブ配信による情報発信を試みてはと思いました。もう一つ、高校生の発表機会などがあれば良いかなと。少し前に市民会館でクラシックバレエのコンクールがあって、そこに出場者の祖父母さんたちが来ているので高齢者を引っ張り出すというか、孫のイベントには祖父母が付いてくるというような仕掛けを作って活性化をしても良いと思います。あと牛久の大仏はだいぶ外国人客が来ています。大きな仕掛けとして、つくばではツールドつくばという自転車の大会を開催しています。霞ヶ浦であれば、ヨットの大会を誘致するとか大きな仕掛けを考えてもおもしろいのではないかと思います。是非情報の発信は力をいれていただければと思います。

(枝川委員)

前委員の永井に代わって委員となりました枝川です。初めての参加になりまして、土浦市中心市街地活性化基本計画について良くわからなくて、簡単で良いのでエリアの定義とか、国からの補助金を受けていると思うのですが、このような計画を出さないと補助金が受けられないとか、達成しないといけないとか、そのあたりを教えていただきたいです。

(福澄課長)

中活の概要を配布しております。こちらをご覧ください。エリアは霞ヶ浦から亀城公園までとなっています。この区画 118 ヘクタールを活性化させることを目的としております。事業については、中活計画の事業としての補助金を取りやすいというのがありますが、必ずしも補助金を受けるための計画として出すのではなく、中心市街地活性化のための計画として出すものです。この中で指標というものを示していますが、指標が上がっているもの、下がっているものがありますが全般的には良好な傾向が見受けられます。皆様には実感としてなかなか活性化だと感じられていないのは、目玉的なハード事業が二期計画では含まれていなかったということがあったと思うのですが、三期計画の中ではいくつかハード事業が含まれておりますので、その結果を見て活性化について判断いただければと思います。概要版の 5・6 ページをご覧くださいと事業についての概要が記されていますので、一度ご覧になってください。補助金に関しては他の事業と併用するということがありまして、中活計画だけにいくらという話はできません。色々な事業が含まれた内の中活計画ということになります。

(中川会長)

情報発信というところでは、土浦にはケーブルテレビがありますので、そういうメディアを利用していくということもできますよね。この間残念だったと思うのは、フリースケートの世界選手権が土浦で開催され、今回で2回目ということですが、「世界」という冠を持って、市の大屋根広場で行えるのだということも含めて、もっと知ってもらうことができれば多くの人が来てくれたらいいと思いますね。

(篠委員)

土浦市の公式ホームページでLINE登録すると、見るか見ないかは別としてたくさん情報が入ってきますよ。簡単に登録できるので皆様の登録してください。

(横山委員)

今回の第三期中活計画で幹事会に出席させていただいております。皆様の期待を背負って中活の計画書はできたのだと思います。色々なご意見ありますが、賑わいはどういう基準で賑わいなのか、ターゲットは観光客なのか外国人なのか、我々土浦市民なのかと色々あると思いますが、来て良かった、楽しんでもらえたというのが一番のまちの活性化に繋がると思いますので、その中で新たな仕組みづくりというのをこれからの5年間かけてフォローアップの中にはいくらかでも入れられますよね。バージョンアップという形になると思いますので、それに向けてここにいる皆さんで意見を出し合っていければと思います。出店者退店者の数については、純増というところは皆さん気になっている所だと思いますので、お忙しいとは思いますが、これについては少し考えていただきたいと思います。知らない店ができた、あそこの店が閉まってしまった、今度は誰がやっているのか、何をやっているのかというような話になってしまうので、皆さん外部の方々に紹介できないということになってしまうので、次回の会議ができれば、そこで明確にさせていただければと思った次第です。残念なのはサイクリングの客が減っているということですね。これは考えていかないといけない対策だと思います。せっかく作ったハードがあるので、検討していかなくてはいけないのかなと思います。

(大久保 ※高木委員代理)

まちなかを歩いてみて、純増とはなっていますが、お店が増えたという実感が無いのが残念です。もうひとつ、霞ヶ浦関連の位置づけが難しいと思うのですが、昨日の当方の役員会でも、これが大きな課題だとわかっているのですが、なかなかこれというアイデアがありません。会長がおっしゃったような噴水という話がありますが、他の人が見てびっくりするようなものを作りたいと思っています。

(小椋委員)

先程、寺田委員がおっしゃっていたツールドつくばに私も携わっておりまして、3年ほど前に中止しています。何故かということ、サイクリストがあまり地域経済に寄与しないということが、顕著な数字で表れておりまして、地元の観光地の皆様からもそろそろ辞めてほしいという意見がありました。サイクリストの皆さんは自前で作ったものを食べて、ゴミを増やしていったというようなことがあったので、サイクリストの美皆さんが訪れて、恩恵を残してくれるというのは多く期待はできないのかなと思っておりまして、青年部で中心市街地で事業を起こすというメンバーおしまして、そういったところで補助金の活用とか、行政で協力いただけるということをお願いしている方も多いため、そういう部分の周知が必要なのかなと思います。先ほど広報力が弱いという話もありましたが、何かを主催される方々が広報は、土浦市でやってくれるだろうという勝手な期待を持っていると思うので、一緒に協力していこうという形が良いのかなと思いました。

(関委員)

発信力が弱いというのは、25年前からずっと改善できていないです。商工会議所、観光協会、土浦市がイベントに対する考え方が違うのか、お互いのことは一切知らない。バラバラに発信してもわからないので、どこかが統一して発信するシステムができていれば、難しいかもしれませんが、ある自治体では市役所が全てのイベントを報告しな

いとしており、ひとつのイベントカレンダーに全て盛り込んでいるということです。土浦市の場合は、小さいものから大きいものたくさんのイベントがあるので、收拾がつかないと思いますけど。以前あったのですが、土浦市の健康増進課でやっているイベント、農林水産課でやっているイベントがあって、相互に関連しているにも関わらず、同じ日に開催してお互いがお互いにやっていることを知らないという、少なくとも市の中だけでも何とかしてほしいと思いました。これは前にも言ったことでもありますが、そういう情報を上手に発信していくということが大事だと思います。キッチンカーのお話が出ていましたが、何故キッチンカーがもてはやされるのかということ、一般的にイベントでお店を出そうとすると、保健所がかなりうるさいので、ほぼ出店できません。キッチンカーは一度許可を取れば1年間イベント出店できます。飲食の部門ではキッチンカーに頼らざるを得ないというのが現実です。例えば長中で餅をついて、それを皆に配りましょうはアウトです。ついた餅は捨ててくださいが保健所の指導です。その他焼きそばを作って家に持って行って食べてくださいもアウトです。その場で作ったものは、その場で食べてくださいということで持ち出せません。何かと保健所が邪魔してくる感じがします。ウララの大屋根下でも飲食スペースはテントを張らないといけません。非常に難しい問題です。それと退店についてですが、新たに店を出して退店するものもありますが、既存店が退店しているというのが非常に多いです。退店店舗については、その所有者が人に貸す気が無いということも非常に多いです。だから空き店舗を埋めていくことが難しいということが現実としてあります。それと、観光資源はあるけれども活かされていないと思っています。歴史のあるまちであり、陸があって、朝日峠から空を飛んでいる人もいますので空もあるし、水があって、陸海空が揃っている所なんて滅多に無いのですが、どれも活かされていない。その辺も根本から考えないと駄目なのだろうと思っています。

(伊藤委員)

市役所の方もいらしているので、飽くまでも私の個人的見解ですが、弊行の土浦駅前支店の跡地がありまして、色々な所からお話をいただいております、中長期的な賑わいの創出という中で、これは個人的な考えですが、私どもの土浦支店は亀城公園の前なのですが、そこで建て直すのが良いのか、個人的には今の駅前支店のところにもう少し周囲の協力を得て、行政サイドからの協力も得ながら、キーテナントして常陽銀行土浦支店が移転して、土日も開けるような形でそこに商業施設が入るとか賑わい創出に寄与できるような絵姿にして、高層階は住居とかになってまちの役に立てれば良いと思っています。これは土浦市長に伝えてきようと思いますが、皆様いかがでしょうか。ご意見いただければありがたいです。

(中川会長)

TXが土浦駅に延伸される頃には、集客力有る施設が駅の近くにあることは良いことだと思います。

(塚本委員)

大和町周辺については、そのような考えというか常陽さんの土地を種地として何とかならないかというのを常陽さんに色々お話をさせていただいた経緯もございます。それとイトーヨーカドーの跡地ですがマンションが建って、ずいぶん周囲も変わってきて、その場所を一体的にもう少し考えなければいけないと市の方でもずっとと思っています。どういうタイミングで、どういう形でやっていくのかというのは今後色々検討していく必要があると思います。先ほどから市の情報発信というところでご指摘をいただいておりますが、確かに情報発信だけでなく、昔から色々指摘いただいておりますが、そのためにシティプロモーションというセクションも作ってやっておりますし、そういった意味で少しずつ色々やっています。市の行事についても毎月各課でやっている行事を全部集めて、プレスに投げ込みしたりとかやっています。情報は取りに行かないと取れない部分がありまして、皆さん色々な情報を知っていると思うのですが、メディアで取り扱われて、それを気になって調べるということをやっていると思いますが、篠委員が言ったように市はかなり情報は流しています。皆さんが興味を持っていただいている情報かどうかという部分で、情報を流すだけでなくそこに自己満足している感もありますので、皆

さんが興味を持って取りに行っていただけの形を今後作っていくというような、これまでのやり方を変えていく必要があるのかなと思います。集客については、中心市街地の中で既存の市が持っている資源をどう活かすか、新しく作るというのは簡単ですけど、そういったことも含めて市では、パトレイバーでマンホールカードというのを作って、これにはコアなファンがおりまして、今年の3月ですかね、市役所のギャラリーでイベントを開催したところ、例年より何千人か多く訪れる方がいたということで、既存の資源の見せ方を変えて、徐々に人を集めるということをやっているということをお知らせさせていただきます。

(石田委員)

先程の常陽銀行さんの話は、近くに住んでいるので期待しています。駅前のマンションできていますが、子育て世代より中高年世代の方が多いと思います。子育て世代は郊外に住んで、中高年が駅前に住むというようなことを聞いた事があるのですが、中高年の方を亀城公園まで歩いて行くとか、買い物するとかそういう仕組みを考えた方が良くと思いますし、それと今空き店舗が増えているという話がありましたけども、確かに昼間の飲食店は増えてないと思います。家の周りの夜のお店は、空き店舗が塞がっていますので、夜だけの営業の店舗だけ塞がっていて、昼間に飲食店を探してウロウロしている人を見かけます。昼に食べられる店舗が駅のあたりにしかなくて、その辺を探しても見つからないですね。昼間の人口増やすには、そういう所も力を入れていただければと思います。

(内村委員)

新規出店の話が出ていますが、以前話したかもしれませんが何故土浦に出店したのか、賃料が安いのか、それとも何か事業性があるのかとか傾向が取れば、新規出店の方を近隣からなのか、市内で2店舗目の出店なのかなど、さまざまな選択肢があるかと思うのですが、そういうところを掘り下げていければ、土浦市外から呼ぶのか、東京の方から呼ぶのか、さまざまな施策に活かせると思うので、そういった所を調査できればと思います。あと、休日の賑わい創出について、資料④の9ページ地点ごとの人数表での駅西口と駅東口連絡通路の地点⑩ですね。平成30年から5年間計測している中で令和5年の4,300人でピークになっていますね。天候に左右されるという話もありましたが、駅の利用客が連絡通路を通過して東口に流れています、送迎の方が多いというか、素通りする方が増えているのではないかと考えると、送迎の方たちに何かPRする方法を考えると良いかこの数値を見て思いました。

(中川会長)

東と西の分断は大きな課題ですね。例えば西口を知ってもらおうという意味で、かすみがうらマラソン大会のスタート地点を西口の市役所前で実施して、何万人もの方々が西口を埋め尽くすことを知ってもらおうと、違うのではないかと思います、東西の分断を無くしてひとつにするための知恵を絞ることは中心市街地活性化にとって重要なことだと思います。

(石田委員)

マラソンについては、あれだけの人数が来るのに、西口では誰も来ないですね。スタート亀城公園前にして、ゴールは川口運動公園にしてという感じにすると良いと思います。今のマラソン大会はコースに全く土浦のまちなかが入っていないので、亀城公園スタートで川口運動公園ゴールとすれば、出場者に土浦のまちなかを知ってもらえると思います。色々課題はあるかもしれませんが、できないことではないのかなと思います。

(篠委員)

マラソン大会に女性団体として毎年参加していますが、西口に人を集めたいというのなら、マラソン大会にはどれだけの人が来るかご存じでしょうか。家族連れで来るので想像以上に大勢の方が来ますので、それを西口へということは知っている人は言えません。今は少なくなりましたが、コロナ前はスタート時に地響きするほどの人数でした。

それを亀城公園スタートにした場合、川口運動公園に集まっていたいたとして、送迎バスが何台必要になるでしょうか。東西の分断という話がありましたが、西口は商業的地域だ、東口はそれとは違う地域なので、それを繋がるようにすることは良いですが同化する必要は無いと思います。地域的にも東口には西口のような商業環境は作ることはできないと思います。東口は霞ヶ浦を活用し、西口は常陽銀行さんがおっしゃっていたように1階を商業ベースにするという形なら賑わい創出に繋がると思います。

(酒井委員)

資料④9ページの地点②うらら広場前の人数が半減しております。令和4年度と令和5年度の入居状況は変わっていません。立体駐車場に車を停めて、そのまま建物内を移動している人もいると思います。飲食店が少ないというような話もありますが、土浦は非常に特殊でして、真鍋地区にスターバックスさんやコメダ珈琲さんをはじめとするチェーン店がほとんど出店しています。その皆さんにお聞きすると、土浦は既に出店しているので対象外ですと言われます。駅前の路面店として出店している方々に聞くと、通行量が圧倒的に足りないと言われます。新しく来た方や高齢者の方々に知っていただかないと、出店する方が出て来ないと思います。駅の乗降客者5~10万人、駅前通行量1万人以上くらいでない、最初から蹴られてしまう状況です。また、出店に関することで言えば、建築費が非常に高騰しています。インシャルコストが1年半から2年前から比べて倍くらい値上がりしていますので、スケルトンにして我々が預かっている店舗もありますが、退店した後に居抜きでどのように利活用するかということが課題かと思っています。また、情報発信については、せっかく花火大会があるので、専用のアプリを作って来場者にダウンロードしてもらい、そこに観光関連情報を掲載し提供するという仕組みを考えるのが現実的かと思います。60万人の方が来浦するのでそのうちの2%、何万人かが来てくれると思います。今年、シティプロモーションか何かの事業で見直しが図られたと思いますので、そういう観点からも検討いただければと思います。

(大久保 ※高木委員代理)

本日、基本計画冊子並びに概要版をいただきましたが、こういうものはどこに行けばいただけるか、市民に対してどのように開示しているのかお聞きしたいです。それと先程マラソン大会のお話が出ましたが、私は観光ボランティアをやっていまして、先日のマラソン大会前日の土曜日の来店客数はマラソン大会当日より多いという事実があります。泊りがけで来ている方が多いということをご承知いただきたいと思います。当日は大徳蔵と亀城公園で待ち構えて、ご案内をさせていただきました。実績は亀城公園で22組でした。大会に参加される方を対象に実施しておりますが、時間的には非常に短く、30分くらいで終わる方がほとんどです。ですので、ぶらぶらしているというか目的を持たないでただ歩いているという気がしました。そのような中で気づいたのが、やはり食堂が足りないということ。食べる場所が無いというご意見が非常に多かったです。

(長坂室長)

基本計画冊子並びに概要版ですが、本日配っておるものもありますが、認定後に土浦市のホームページでもご案内させていただき、皆様にご覧いただけるようにしています。

(中川会長)

貴重なご意見ありがとうございました。

最終フォローアップに関する報告の協議会意見については、只今伺いましたご意見も、参考にしながら提出して参ります。

内閣府への報告期限が迫っておりますので、修正については、私にご一任いただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

※異議なしの声

最後に、副会長に就任いただいた村上教授とオブザーバーのお方からコメントをいただきたいと思います。

村上副会長よろしくお願いたします。

(村上副会長)

先程の議論をお伺いして、また今回お話をいただき第三期の計画を読ませていただいて非常に高レベルな議論をされた結果、この第三期計画が出来あがったのだなと思えました。非常に細かい議論をされているなど思っていましたけれども、今日の会議に参加して、中川会長が皆さんのご意見を巧みに引き出しているなど思いました。こういうところから、意見が出てきたのだなと思えました。私の所属する筑波大学の社会工学科で3年生向けに演習を行っていきまして、マスタープラン策定演習と言って毎年委員の皆様や土浦市の皆様にお世話になっておりまして、3年生ですが稚拙な提案をさせていただいておりますが、1学期間土浦に来てみると、非常に魅力があるという色々な資源があるという感じで学生にとって発見が多いです。霞ヶ浦があり、歴史的資源があり、さまざまなイベントがあり、サイクリングのまちづくりもありということで、語弊があるかもしれませんが、これだけ資源があって何故活かされないのか、十分な効果を発揮していないのかと学生が不思議に思ったりしていますが、それでも若い人にとって魅力と可能性を感じるというのは、私自身も学生も体験して感じています。そういう意味で、きめ細かい第三期計画があり、資源がありということで将来の展望は明るいのではと思うのですが、この先必要になってくるのは、エリアマネジメントと言いますか、さまざまな取り組みを連携させて相乗効果を発揮させるものではないかと思えます。私は、これに関係するまちなか再生の審査を行っていますが、そこでもエリアマネジメントがいかにか継続的にできるかというところが、審査のポイントになっていきますので、それに関して今後は考えていく必要があるのかなと持っています。その部分に関して今日のお話の中で、産官連携とありますが、是非そこに産官学と「学」も入れていただければと思います。私どもの大学では何人も土浦市の都市計画あるいは建築関係にコミットしている学生もおりますので、データの解析とかそういったところからご一緒させていただき、産官学でまちづくりを展開できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(中川会長)

ありがとうございます。

続きまして、茨城県産業戦略部中小企業課 課長 武井様の代理として出席いただいております中小企業課経営支援室 室長の海野様。

(海野室長)

皆様のご意見を聞いておりまして、確かに定住人口や交流人口の増加というのは、どこの市町村でも共通の課題でありまして、大変だと思えます。そういう中で県内の中心市街地活性化協議会を設置しているのは土浦市さんと水戸市さんと石岡市さんと鹿嶋市さんの4か所だと思います。どこの市町村でも厳しい中、土浦市さん他3市でこういった議論の場を設けて、一生懸命やっておられることに感銘しております。私は土浦市に住んでいるわけではないので、土浦市は水資源もあり、歴史的建物もあり非常に魅力的なまちなかではないかと思っております。ただ県内には色々拠点はありますが、その中でも人が集まる所、集まらない所の差というのは、ほんのちょっとした事だと思います。ネモフィラもここ最近騒がれておりますが、うまくマスコミに乗って話題が話題を呼んで人が集まっていいというところもあるのですが、土浦市さんの魅力について情報発信が話題になりますけれども、若者はインスタなどを見ながら行きたい所を探して休日などは、そこに行っている気がします。茨城県ではネモフィラに目を付けたわけではなく、花絶景という企画を本年度から力を入れていくようです。例えば、霞ヶ浦運動公園にはチューリップがあると思うのですが、そういったものは意外とインスタでは興味を持って紹介されています。足利フラワーパークなど最近「花」が話題になっていますので、そういったところをうまく関連付けながら、PRできたらと思っております。あと、私も少々自転車に乗っていきまして、りんりんロードも走りましたが本気で楽しむ方や、私もそうですが、ゆるめに楽しむ方がいらっしやいます。その際、りんりんポートから出発して途中食べる所が無い気がしているので、スポーツとして走る方もおられるでし

ようが、ゆるくまちなかを散策する感覚で楽しみたい方向けに飲食スペースですとかあると良いと思います。まちなかにはあると思うので、その辺をうまく紐づけしていければ特に休日の交流人口に繋がるのかなと思いました。

(中川会長)

ありがとうございます。

予定した時間を過ぎてしまいまして申し訳ありませんが、皆様から貴重なご意見をいただけたと思います。ありがとうございました。

本年度は、第三期基本計画が動き出す年度でございます。

その経過を報告していただく場面を設けたいと思っています。機会をとらえて、会議等を開催いたしますので、ご協力をお願いいたします。

以上をもちまして、本日の協議会を閉会いたします。長時間ありがとうございました。